



『“文殊”とは、学問に秀出ることのみならず、現世を生き抜く智恵を身につけることを指します。』
 浄土宗文殊山大聖寺住職福田良誉様(写真中央)の説法時の一説



浄土宗功徳山當信寺本堂前にて
 この建物の陰には、
 真田幸村の次男大八とその姉阿梅の墓・石仏がある。

令和6(2024)年度 第一回 越河歴史探訪会 令和6年5月12日(日)
 白石市内の名刹を巡る旅 (延命寺・専念寺・當信寺・大聖寺)

越河の史跡
 をたずねる旅

越河歴史探訪会 令和6年度第二回 “馬場台” 本と覚永寺伝承古道”を巡る 令和6年6月23日(日)

越河の歴史
をたずねる

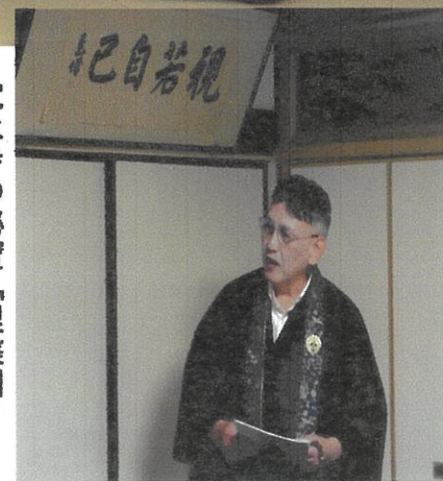
09:03講義:「宮城県白石市越河の考古学的調査」by前東北歴史博物館上席主任研究員相原淳一氏11:35⇒11:50覚永寺由来by小川真住職12:22&解散



相原淳一氏、「馬場台」は
駅家とは認定されぬ
との結論を、多方面から



覚永寺の秘寶「涅槃図」



覚永寺住職小川真氏、明治政府の施策「廃仏毀釈と覚永寺」を講ず。

伊達氏縁の地めぐりの旅(その六回目) 太斎館・大枝城趾・石母田城趾

越河部落会館で座学by笠松金次氏⇒太斎館跡⇒大枝城⇒国見SAで昼食⇒石母田城跡⇒現地解散



石母田城趾の内堀を背にして

石母田城がいつ築城されたかは明らかではない。だが、伊達氏家臣の石母田氏が城主を務めた記録は残っている。石母田氏は伊達氏譜代の家臣であることから、鎌倉時代初頭に伊達氏が入部したとともに石母田の地を与えられ、築城された可能性がある。石母田氏は、伊達氏第14代植宗から第17代政宗の時代に掛けて重臣として活躍した一族で、特に第15代晴宗の代には石母田光頼が陸奥国守護代に任じられ、その後石母田景頼が数々の功績を挙げ、後に宇和島藩伊達家の筆頭家老となっている。その後天正18(1590)年の豊臣秀吉による奥州仕置により破却されるまでは伊達氏を支えた石母田氏の居城であった(菊池利雄)。

令和6(2024)年度 第三回 越河歴史探訪会 令和6年9月15日(日) **越河の歴史をたずねる旅**
伊達氏縁の地めぐりの旅(その六回目) 太斎館・大枝城跡・石母田城跡
越河部落会館で座学by笠松金次氏⇒太斎館跡⇒大枝城⇒国見SAで昼食⇒石母田城跡⇒現地解散



笠松金次氏により、太斎館『太斎小左衛門』と石母田城『佐藤筑後』との関係性が明らかになる。



大枝城跡でパチリ。この画像の向こうに、阿武隈川がたゆとおっている。